



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4524号 2018.8.3 発行

通常国会が閉幕 福祉関連で成立した法律は 福祉新聞 2018年08月02日 編集部

第196通常国会が7月22日、閉幕した。政府が新規提出した法案65本のうち、成立したのは最重要法案に位置付けた「働き方改革」関連法など60本で、成立率は昨年（95.5%）よりやや低い92.3%だった。会期を32日間延長することで、カジノを含む統合型リゾート（IR）実施法など与野党が対立した法案も成立した。厚生労働省提出法案としては働き方改革のほか改正生活困窮者自立支援法などが成立した。

一方、厚労省が昨年につき再提出する予定としていた精神保健福祉法改正案は提出されなかった。措置入院から退院したすべての患者に対して支援計画を作るよう都道府県・政令市に義務付けるものとみられていた。

厚労省は今年3月、措置入院の運用、措置入院患者の退院後支援に関する指針2本を地方自治体に発出。同法を改正しなくてもできることは、所定の手順に沿って取り組むよう自治体に求めた。

成年被後見人など欠格条項を見直し、職業上の資格制限をなくすための一括改正法案は内閣府が提出したが、成立せず継続審議の扱いとなった。

社会保障関係で成立した法律、承認された条約は次の通り。

【政府提出】

- ▽改正医療法及び医師法＝都道府県に医師確保計画の策定を義務付け、医師の地域偏在を解消する
- ▽改正子ども・子育て支援法＝事業主からの拠出金の率の上限を引き上げる
- ▽改正地方分権一括法＝認定こども園のタイプにかかわらず事業者が手続きを行う窓口を一本化する
- ▽改正災害救助法＝都道府県が担っている仮設住宅の整備や支援物資の分配といった権限を政令市に移譲する
- ▽改正民法＝成人年齢を18歳に引き下げる
- ▽改正民法及び家事事件手続き法＝相続法制を見直し、残された配偶者が自宅に住み続けられるよう「配偶者居住権」を創設する
- ▽改正著作権法＝著作物の複製を認める者の範囲を広げる
- ▽改正学校教育法＝視覚障害のある児童生徒にデジタル教科書の使用を認める
- ▽改正バリアフリー法＝段差解消などの義務を適用する事業者の範囲を広げる
- ▽所在者不明土地の利用特措法＝福祉施設など公共目的での利用を最長10年間認める新制度を創設する
- ▽改正建築基準法＝空き家の活用に向け耐火基準の規制を緩和する
- ▽改正消費者契約法＝悪質商法による消費者被害を救済する
- ▽マラケシュ条約＝視覚障害者などが著作物を利用する機会を促すための複製について定める

【議員立法】

- ▽ギャンブル等依存症対策基本法＝パチンコを含む依存症の対策について政府が基本計画

を作る

▽障害者文化芸術活動推進法＝障害者の創造環境を整備し、鑑賞機会を拡大する

▽改正公職選挙法＝参院選挙区の候補者が独自に録画した映像（手話通訳や字幕）を政見放送に使えるようにする

「ともに生きる」願い宇宙に 差別なくす憲章イメージの旗、野口氏のシャトルで打ち上げ

日本経済新聞 2018年8月2日

神奈川県は、障害者への差別や偏見をなくすために策定した「ともに生きる社会かながわ憲章」をイメージした旗を2019年末に打ち上げるスペースシャトルに載せる。県出身の宇宙飛行士、野口聡一氏の3回目の宇宙飛行に合わせ、積んでもらう

国民年金保険料 安くできる？ まとめて前払いで割引 読売新聞 2018年8月2日

◆国民年金の保険料

2018年度 月1万6340円
2019年度 月1万6410円

月々納めるより、
まとめて「前納」すると、
これだけ安くなります!

自営業者や学生などは、国民年金の保険料を自分で日本年金機構へ納める必要があります。

2018年度は月1万6340円、19年度は月1万6410円です。

機構から届く納付書を使って、毎月、銀行や郵便局、コンビニエンスストアで現金で支払うほか、インターネットバンキングなどの電子納付も可能です。

月々納めるのが面倒な人は、口座振替やクレジットカードも利用できます。毎月、口座から自動で引き落とされるので、納め忘れる心配もありません。

とはいえ、保険料は年間20万円近くに上ります。少しでも安くする方法はないのでしょうか。知っておくとよいのが、保険料をまとめて前払いする「前納」というしくみです。期間に応じて保険料が割引されます。

最も割引額が大きいのは、口座振替で4月から2年分の保険料を前納するケース。例えば、今年4月から2年分を前納した人は、一度に37万7350円を口座振替で納めました。月々納めるよりも、2年間で1万5650円安い金額です。

前納は現金やクレジットカードでもできます。割引額は、今年4月から2年間で1万4420

半年分 前納 (18年4～9月、 10月～19年3月)	口座振替	半年で 1110円
	現金 or クレジットカード	半年で 800円
1年分 前納 (18年4月～ 19年3月)	口座振替	1年で 4110円
	現金 or クレジットカード	1年で 3480円
2年分 前納 (18年4月～ 20年3月)	口座振替	2年で 1万5650円
	現金 or クレジットカード	2年で 1万4420円

※厚生労働省の資料から

円なので、口座振替の方がお得です。

1年分や半年分の前納も可能です。詳細は年金事務所に相談してください。

「一度にまとまったお金を納めるのは難しい」という人には、1か月分だけ口座振替で前納する方法があります。「早割」というサービスで、保険料が50円安くなります。1年間続ければ600円お得です。ただ、早割は口座振替のみで、現金納付やクレジットカードの利用はできません。

保険料を納めないと、老後に無年金や低年金になりかねません。また、障害基礎年金や遺族基礎年金を受給できない場合があります。

劇場 遠慮せず楽しんで 障文祭前に知的障害者ら体験 おおいた大茶会
大分合同新聞 2018年8月2日

暗闇にならないなどさまざまに配慮した会場で映画を観賞し喜んでポーズを取った参加者＝別府市の別府ビーコンプラザ



知的・発達障害児（者）が映画や演劇を安心して劇場で観賞してもらえるよう支援する体験プログラム「劇場って楽しい！」が7月16日、別府市の別府ビーコンプラザで開かれた。知的障害者と家族ら約300人が映画を楽しんだ。今秋に開かれる全国障害者芸術・文化祭おおいた大会（障文祭）に向けた取り組み。観賞する側と受け入れる側とが“本番”に向けて心構えなどを学んだ。

知的障害者は障害の特性で突然声を出したり、立ち歩くことがある。その心配から劇場での観賞を控える場合が少なくないとされる。体験プログラムは、観賞のルールやマナーを学び劇場での観賞につなげようと取り組む国際障害者交流センター「ビッグ・アイ」（大阪府）が提供している。

この日の体験プログラムは2回に分かれて実施。各150人が参加した。映画は3本立てで計1時間。司会者は、観賞のルールを丁寧に説明。会場内の照明を落とす前に暗くする理由を教えたり、開演のブザー音を事前に鳴らして音に慣れてもらう配慮をした。会場内を暗闇にしないなど劇場側が留意すべき配慮についても確認した。中には、声を出したり、歩き回って途中で退席する参加者もあったが混乱することはなかった。

大分支援学校高等部1年の大平良汰さん（15）と一緒に観賞した母親の美由紀さん（45）は「いつもはかんしゃくを起こすのではないかなど周囲に気兼ねするが、今回はゆっくりと見ることができた。このような機会が増えてほしい」。同支援学校小学部の橋本天空（たから）君（8）、真理さん（50）の親子は「音の大きさや人の多さに子どもがどのように反応するか予測できないので、劇場に慣れるための機会はありがたかった。息子は思った以上に集中して見ていた」と喜んだ。

この日は、障害者芸術・文化祭で劇場運営側となる市町村職員や関係者、ボランティア学生ら計32人も参加。障害者を迎え入れる研修を受けた後に体験プログラムのスタッフとして障害者らを受け入れた。講師を務めたバリアフリーイベントディレクターの南部充央さんは、知的障害者らを迎えるにあたり事前に必要な情報を把握することの大切さを指摘。「参加者がどのような不安を持ち、どのような配慮が必要なのか。イベントの募集段階からしっかりと考えてほしい」と呼び掛けた。

今回の体験プログラムでは募集定員300人に対し450人以上の応募があった。県国民文化祭・障害者芸術文化祭局事業推進課の田尻昭典主幹は「劇場に行きたくても控えている人が予想以上に多いことが分かった。このような形で体験し自信を付ける機会を設けることの重要性をあらためて認識した」と話している。

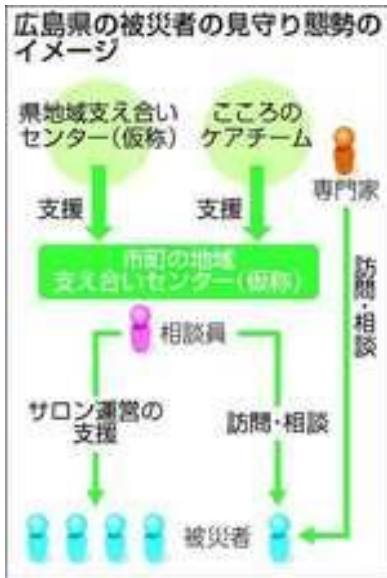
“本番”は10、11月に大分市で

第18回障文祭では、知的・発達障害のある人の観賞に配慮した「誰でも楽しめる映画館」を実施する。10月21日は午前11時からと午後2時から大分市のT・ジョイパークプレイス大分で「ドラえもん のび太の宝島」を上映。11月17日と同18日はいずれも午後2時から、大分市のTOHOシネマズアミュプラザおおいたで。作品未定。

入場料500円。各回とも定員200人（事前申し込みが必要）。8月中旬に募集開始。詳しい内容は、障文祭ホームページで。

【西日本豪雨】被災者ケア拠点開設へ 広島県・11市4町、訪問やサロン (8/2 0:00)

中国新聞 2018年8月2日



西日本豪雨の被災者の心のケアや生活支援を中長期的に進める態勢を充実させようと、広島県と県内の11市4町は9月にも、拠点となるセンターを開設する。東日本大震災や熊本地震の被災地の取り組みをモデルに、被災者を戸別に訪問したり、居場所となるサロンの設立を支援したりする。被災者が孤立しにくい環境を整えて、自殺者の増加や要介護度の進行などの懸念を取り払う。

拠点は「地域支え合いセンター（仮称）」。県は広島市南区の県社会福祉協議会につくり、民間で福祉業務の経験がある4人を置く。市町の取り組みをサポートするため、相談員の研修を開いたり、弁護士や司法書士を派遣したりする。

災害救助法を適用した呉市や三原市、坂町など11市4町には、自前のセンターを構えてもらう。地元の社会福祉協議会などに設け、社会福祉士や民生委員の経験者たち4人程度が相談員として詰める想定。費用は県が全額を負担

する。

相談員は、被災者が生活の拠点とする自宅や仮設住宅、避難所などを訪問し、支援が必要かどうかをつかむ。要支援者と判断した場合は、必要に応じて医療機関の受診を勧めたり、介護サービスの利用を呼び掛けたりする。サロンの設立などで居場所づくりも担う。

県は9月、各センターの業務を支える「こころのケアチーム」を、県立総合精神保健福祉センター（坂町）に発足させる。医師や保健師、精神保健福祉士たち4人がメンバーとなり、専門知識が求められる被災者への対応や、サロン運営の支援などを担う。

県立総合精神保健福祉センターの所長で、精神科医の佐伯真由美さん（54）によると、2011年3月の東日本大震災や16年4月の熊本地震の被災地では、被災から2カ月ほどで心身の疲れがピークに達するケースが多かったという。「やり場のない怒りや不満、不安から、心身の不調や周囲とのトラブルが現れやすい」として、悩みを一人で抱え込まないよう呼び掛ける。

県は関連の事業費2億600万円を、18年度一般会計補正予算案に計上した。県健康対策課は「被災者が抱える心身の負担や回復の仕方は多様と見込まれる。一人一人に寄り添ったきめ細かな支援を、息長く続けられる態勢を築く」としている。

いじめ防止、どうすれば… 明石で小中生が議論

神戸新聞 2018年8月2日



いじめ防止の取り組みについて話し合う子どもたち＝市立勤労福祉会館

子どもたちがいじめ防止の取り組みについて話し合う「いじめストップあかし こども会議2018」が1日、兵庫県明石市立勤労福祉会館（相生町2）で開かれた。市立の小中学校と神戸大付属小の児童会、生徒会から86人が参加。08年に採択した「いじめストップこども宣言」を見直し、新しい「こども宣言」をまとめた。

市教育委員会が毎年開催。会議では、子どもたちが地域ごとに九つのグループに分かれ、一人一人が意見を出し合いながら議論を深めた。

各グループは1時間ほどで意見をまとめ、グループごとに短い文にして発表。会員制交流サイト（SNS）などネットでのいじめ防止策では、「10年先もSNSやLINE、スマートフォンなどがあるかどうか分からない」として、「便利なもの」をいじめの道具に使わないようにしようと発表するグループもあった。

その後、各グループのリーダーが意見を持ち寄って、新しい宣言を参加者に提案。「一人で考えずに信頼できる人に相談します」「相手の気持ち、考えを大切にし、言葉を選びます」「便利なものを、人を困らせる事に使いません」など、七つの宣言をまとめ、拍手で採択した。

議長を務め、グループの議論にも参加した中学3年の女子生徒（14）は「今はSNSがあり、10年前とは状況が違う。みんなが真剣に話し合いをしたのはよかった。これをきっかけに過ごしやすい学校をつくっていききたい」と話していた。（吉本晃司）

山谷で聞いた、あなたの足跡 支援者が冊子創刊

東京新聞 2018年8月1日



「あじいる」を紹介する「あしあとプロジェクト」のメンバーたち＝東京都荒川区で

簡易宿泊所が並ぶ東京・山谷地区（台東、荒川区）で暮らす日雇い労働者や路上生活者らの人生を聞き書きした冊子「あじいる」が創刊された。生活困窮者らの支援者たちが「彼らが生きてきた証しを残したい」と編集。高齢化が進む「労働者の町」のそれぞれの軌跡から、社会の矛盾が浮かび上がる。（中村真暁）

中心メンバーは、医療や生活に関する相談会を山谷周辺で毎月開いている「隅田川医療相談会」（荒川区）と、福祉施設などに食材を提供する「フードバンク」（同区）などの有志七人。両団体はコメの精米や配送などに共同

で取り組み、相談会で出会った労働者らも作業に参加している。

山谷には複雑な背景を抱える人も多く、過去を聞かないのがエチケットだ。それでも関係が深まると、昔の話をしてくれる人もいる。坪一さん（86）＝仮名＝も二、三年前から、過去の話語り始めた一人だ。

若いころ足尾銅山（栃木県）で働いていた坪一さんは、働き方や採掘方法を詳細に説明してくれた。だが、荒川朋世さん（30）ら若いメンバーには想像できないことばかり。その昔話りに引かれたメンバーたちは「実際に見たい」と、昨年一月には坪一さんと一緒



に足尾銅山も訪れた。見学できる坑道やトロッコ電車を見て回ると、いつも寡黙な坪一さんも目を輝かせた。

「恥ずかしいな」とつぶやきながら、あじいるを読む坪一さん

日本の高度経済成長を支えた「山谷の人生」の一端に触れた体験から、荒川さんらは昨年春、坪一さんや他の労働者らの軌跡を残す「あしあとプロジェクト」をスタート。冊子名はフランス語で「統治権力が及ばない地域」などの意味があるアジュールから付けた。五月に発行された創刊号では、全国の炭鉱や山谷で働いた坪一さんの人生をたどる。荒川さんは「山谷の仲間はスポットライトが当たりやすく、怖いイメージも持たれがちだが、日本の近代社会を支えてきた。彼らが生きてきた足跡を残したかった」と振り返る。

各地の炭鉱閉山など世の中の出来事と坪一さんの人生を一覧できる年表も付けた。山崎まどかさん（51）は「個人をしっかりと知ると、社会的な背景も見えてくる。なぜ山谷にたどり着いたかに思いをはせてほしい」と狙いを説明する。

創刊号は無料で、A5判、十七ページ。入手方法は「あしあとプロジェクト」のホームページで紹介。次号は秋ごろ発行予定。発行継続のため寄付も募っている。

特殊詐欺、進む低年齢化＝後輩や同級生誘い込む―識者指摘「バイト感覚」

時事通信 2018年8月2日

振り込め詐欺などの特殊詐欺で摘発される未成年者が急増している。識者は「アルバイト感覚で手を染める少年も多い。逮捕される犯罪だというメッセージを伝えていくべきだ」と指摘する。

警察庁によると、今年上半期に摘発された少年のうち約73%は現金受け取り役の「受け子」だった。成人のなり手は減少傾向にあり、20代が後輩や、その同級生を犯行グループに誘い込むケースもみられるという。

警視庁は、特殊詐欺に関与した少年らの証言をまとめたDVDを作成した。登場する元受け子の少年は「高校の先輩から稼げる仕事と言われ、危ないなと思いつつやってしまった」「いずれ逮捕されると思ったが、続けないとぼこぼこにされるし、お金が欲しかった」と振り返った。

東京未来大の出口保行教授（犯罪心理学）は「インターネット交流サイト（SNS）が発達し、バイト感覚で気軽に加担する少年が増えている。主犯側は、末端の受け子などに少年を使うことで自分は摘発されないと思っている」と指摘。『「犯罪とは知らなかった」では済まされないことを広く伝えていく必要がある』と話した。

筑波大の土井隆義教授（犯罪社会学）は「閉塞（へいそく）した人間関係の中で生活しているため、自分の居場所はそこにしかないと思い、誘いを断れない少年が増えている。人間関係を広げる環境づくりが大事になる」と強調した

ドア間隔の異なる新幹線OK…新大阪駅も可動式ホーム柵 JR東海

産経新聞 2018年8月2日

東海道新幹線の新大阪駅に設置する可動式ホーム柵のイメージ（JR東海提供）



JR東海は、東海道新幹線新大阪駅の安全性を強化するため、2022年度末までに可動式ホーム柵を全ホームに設置する。新幹線が発着する20～27番線の8線のうち、27番線のみ設置が済んでおり、残る7線について5年間で約71億円投じて整備する。

ドア同士の間隔が異なるタイプの車両に対応できるように、計約10メートルにわたって開口する柵を新たに開発した。新大阪駅を使うJR西日本にも工事費の一部負担を求める方向で調整する。

ホーム柵の設置により、ドア部分が開いている現在の固定柵よりも、線路への転落を防止する効果などが高まるとしている。

つくば市、ネット投票で支援事業選定 マイナンバー活用

日本経済新聞 2018年8月1日

茨城県つくば市はブロックチェーン（分散型台帳）技術とマイナンバーカードを活用したインターネット投票を28日に実施する。まず、同市の支援事業を選ぶコンテストの審査で導入する。ブロックチェーンとマイナンバーカードを使ったネット投票は国内初の試みという。改ざんを防いだり、秘匿性を確保したりして適正かつ効率的な投票の実現を目指す。

投票は市内の施設での実証実験などを支援するために公募した先端技術13件から優れた

提案を決める最終審査で導入する。20～24日に期日前投票、28日に本投票を行う。

まず、投票所に設置された読み取り機にマイナンバーカードをセットする。認証画面に進み、電子証明書の署名用パスワードを入力して本人確認を行う。投票画面に進み、先端技術の提案を選択して投票する仕組み。

投票できるのは、マイナンバーカードを持っている人で、市民以外も投票可能。参加は無料。

五十嵐立青市長は1日の会見で「民主主義の新しい形を提示できるなど可能性を秘めている。そういったことをやっていく第一歩だ」と話した。

スマホにマイナンバーカード機能搭載…法改正へ

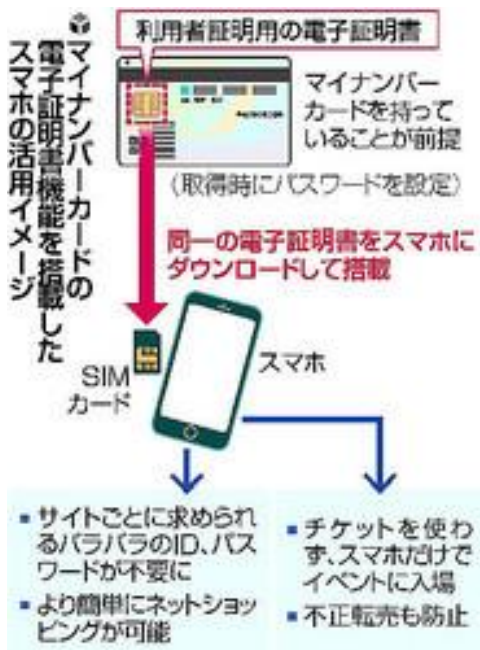
読売新聞 2018年7月30日

政府は、マイナンバーカードに内蔵されている公的な電子証明書を、スマートフォンにも搭載することができるように制度を見直す方針だ。

インターネットでの買い物や銀行取引などが、より安全で簡単になる。来年の通常国会に関連法案を提出する。

マイナンバーカードのICチップには、本人確認のための電子証明書が記録されているが、現行の公的個人認証法は「二重発行」を禁じている。法改正でスマホ1台分だけ、複製を認める方針だ。マイナンバーカードには、マイナンバーや住所などの個人情報を含むものと、含まないものの2種類の電子証明書がある。複製が認められるのは、「含まない」ものだけだ。

利用者は、まずマイナンバーカードを取得し、パスワードなどを決める。スマホに電子証明書を複製する方法は、ネットからのダウンロードなどが想定されている。



お仕事「大変」でも「楽しい」 小学生体験イベント

大阪日日新聞 2018年8月2日

JR大阪駅の複合施設「大阪ステーションシティ」で1日、夏休み中の小学生を対象にした仕事体験イベントがスタートした。事前申し込みで集まった子どもらが“本物のお仕事”に生き生きと挑戦し、「楽しい」と声を弾ませた。

体験イベントは、大阪ターミナルビルが「キッズウイーク」として2013年から実施。節目の10回となる今回は、雑貨店や駅員、映画館などこれまでで最多の15プログラムを用意（応募期間は終了）した。

水消火器を使った訓練に臨む子どもら＝1日、大阪市北区の大阪ステーションシティ

初日は、ジェイアール西日本総合ビルサービスの警備隊とともにビル内を巡回。ノースゲートビルディング11階の「風の広場」では、敬礼の訓練や水消火器を使つて的を倒す訓練もあった。

敬礼をきちんと決めた井口紗希さん（10）は「大変なお仕事だとよく分かった」、消火器訓



練を終えた岡前泰河君（7）は「難しかったけれど楽しかった」と笑顔で話していた。

皇太子さま、津の障害者施設に ボッチャ実演ご見学 産経新聞 2018年8月2日

全国高校総合体育大会の総合開会式出席などのため三重県を訪問中の皇太子さまは2日、津市にある県立子ども心身発達医療センターと、併設する県立かがやき特別支援学校を訪問された。

センターでは、利用者が重度脳性まひ者や四肢重度機能障害者向けに考案された競技「ボッチャ」を実演。支援学校の生徒が合唱を披露する機会も設けた。

皇太子さまは同日午後、鈴鹿市で高校総体のソフトテニスの試合を観戦、帰京される。



重度障害の子へ母がデイサービス

中国新聞 2018年8月1日

■魚釣りゲームを取り入れた療育活動に臨む子どもや a m i a m i のスタッフ

心身に重い障害のある子どもがいる山口市の母親4人が同様の症状の子どもを預かる「放課後等デイサービス a m i a m i（アミアミ）」を同市下小鯖で運営している。市内では受け皿の福祉施設がないため、自らNPOの法人格を取得し、金融機関から融資を得て開設にこぎ着けた。

余録 江戸川柳に「定齋屋は色の黒いが自慢なり」がある… 毎日新聞 2018年8月2日

江戸川柳に「定（じょう）齋屋（さいや）は色の黒いが自慢なり」がある。定齋屋は暑気（しょき）あたりの薬を売って回る物売りだが、他の商売のような売声がない。歩くごとに鳴る薬箱の金具の音と、顔の日焼けが看板代わりだった▲というのも暑気あたりの薬の効能を示すために炎天下、かさや手ぬぐいをかぶらずに街を歩き回ったのだ。だが明治に入るとさすがに、こんな販売方法を批判する声が出てくる。販売元もすぐに売り子にかさをかぶらせるようにした▲「何にしても定齋屋が二百年、笠（かさ）をかぶらず暑中行くのを改めたのも開けた世のありがたさでありましょう」とは当時の新聞の論評だった。この文明開化のおかげで命拾いした売り子もいただろう（興津要（おきつ・かなめ）著「大江戸商売ばなし」）▲こちらは今夏の「一つの災害」といわれる酷暑である。暑気あたりーいや、熱中症の搬送者数は今季すでに昨シーズン全体を上回り、過去最多となるのは確実という。今までの夏の常識を改めねば人の生命にかかわることになった▲イベントやお祭りでは子どもの行事の取りやめが相次いだ。学校ではプール開放が中止され、部活は熱中症対策が最優先である。高校野球も水分摂取タイムが設けられ、炎天下のスポ根物語は定齋屋の日焼けと同じ運命をたどるのか▲札幌市では電気を止められた生活保護受給者の女性が熱中症で亡くなった。エアコン設置費用が今年から条件付きで支給される生活保護世帯だが、こんなケースもある。温暖化時代の「文明開化」いまだしだ。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行